

水辺のふるさと かつしか 秋号

2023.6-8

自然環境レポーター通信



写真のタイトル：チョウトンボ

撮影場所：水元公園

写真提供：むしあお

水辺のふるさとかつしか 秋号

目次

- 1 55種の動植物調査結果 P 2
- 2 自由レポート P 3～22
- 3 季節の写真集 P 23～27
- 4 魚からの便り P 28～31
- 5 環境課からのお知らせ P 32～33

担当編集のひとこと



こんにちは。環境課自然環境係の大野と申します。

令和5年9月2日に、自然環境レポーター委嘱式及び事業説明会を開催しました。
令和5年度の自然環境レポーターの皆さま、どうぞ宜しくお願い致します。

今回は、イベントの際に私が思っていたこととお話ししたいと思います。

この頃は親子自然観察会（セミの羽化）など、夏を楽しむ子供たちに向けたイベントの運営に関わっていました。保護者も子供たちも楽しそうに参加している様子を目の当たりにすると、頑張って準備をして良かったなあとしみじみ思います。身近にある自然はこんなに楽しくて魅力的なんだということを、これからもイベントや水辺のふるさとかつしかを通じて伝えていけたらと思います。

環境課自然環境係大野

55種の動植物 調査結果（6月～8月）

【調査区3】 計21種

- 〈鳥類〉ツバメ、コサギ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉ギンヤンマ、アキアカネ、オオカマキリ、
エンマコオロギ、クマゼミ、アブラゼミ、
ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、
ニイニイゼミ、クロアゲハ、ナミアゲハ、
ツマグロヒョウモン
- 〈植物〉アカメガシワ、スギナ、**シロツメクサ**、
イモカタバミ、ツユクサ
- 〈爬虫類〉ニホンカナヘビ

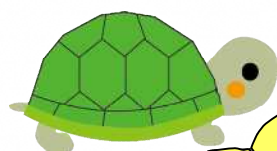
【調査区5】 計29種

- 〈鳥類〉コアジサシ、ツバメ、オオヨシキリ、ツグミ、
ウグイス、コサギ、コゲラ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉ギンヤンマ、アキアカネ、エンマコオロギ、
クマゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、
ミンミンゼミ、ニイニイゼミ、クロアゲハ、
ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン、
アカボシゴマダラ
- 〈植物〉アカメガシワ、スギナ、**ナガミヒナゲシ**、
シロツメクサ、オオバコ、カントウタンポポ、
ツユクサ
- 〈爬虫類〉ニホンカナヘビ、**ミシシッピアカミミガメ**

【調査区1】 計20種

- 〈鳥類〉コアジサシ、ツバメ、コサギ、カワセミ
- 〈昆虫〉ギンヤンマ、トノサマバッタ、
クマゼミ、アブラゼミ、ツクツクボウシ、
ミンミンゼミ、ヤマトタマムシ、
クロアゲハ、ナミアゲハ、
ツマグロヒョウモン、**アカボシゴマダラ**
- 〈植物〉アカメガシワ、**シロツメクサ**、
アレチウリ、**ジュズダマ**
- 〈クモ綱〉コガネグモ

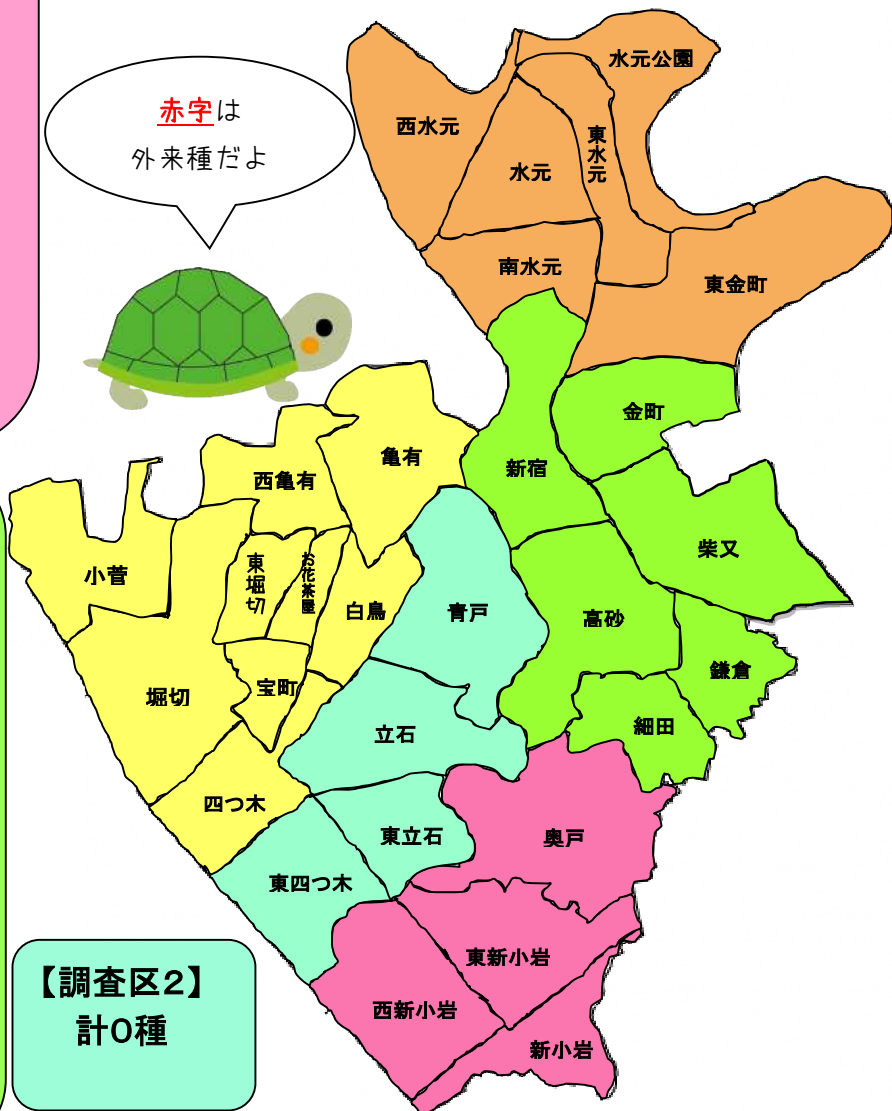
赤字は
外来種だよ



【調査区4】 計24種

- 〈鳥類〉ツバメ、コサギ、シジュウカラ
- 〈昆虫〉アキアカネ、エンマコオロギ、
クマゼミ、アブラゼミ、
ツクツクボウシ、ミンミンゼミ、
ニイニイゼミ、クロアゲハ、
ナミアゲハ、ツマグロヒョウモン
- 〈植物〉アカメガシワ、スギナ、
ナガミヒナゲシ、**シロツメクサ**、
スズメノエンドウ、**イモカタバミ**、
オオバコ、ツユクサ
- 〈爬虫類〉ニホンカナヘビ
- 〈クモ綱〉コガネグモ、ジョロウグモ

【調査区2】 計0種



過ぎた夏の日

弥生さくら草

今年の夏は異常に暑く閉口した。毎日、毎朝暑いという言葉の挨拶で始まり、終始繰り返した。その異常さは報道によれば、気象を記録して以来だそうである。

それは多方面にわたって影響があった。まず植物が被害を受けた。鉢物は言うに及ばず、大地に植わっている立木まで葉の色が茶色くなった。正月に重宝する千両、紫陽花、ほととぎす。ゼラニウム。それだから朝夕の水遣りは欠かせないのは勿論の事、ほとんど雨が降らない。それが洪水になる程降った地方があるから皮肉なことである。それでは水を撒くのも遠慮する心地である。地球温暖化が叫ばれてからもう久しい。そうして来年以後もこのような気候だそうである。

異常な気候のせいかいつも姦しく鳴き喚く蟬の声がか細い。彼等にも辛い状態だったのか。それでも八月の末頃になると秋の虫の声がひっそりと聞こえた。塩辛トンボが飛んで来た。これも珍しかった。今年九月の中頃になってまだ残暑である。

令和5年9月14日

氏名	散歩の花子	町名	東新小岩／奥戸	調査区	1-1
----	-------	----	---------	-----	-----



モッコク(木斛)／(モッコク科)

どこからか芳しい香りに近づいてみれば、木の下には一面白い小花が散り敷いていました。
風が吹くと更にホロリポロリと1cmほどの五弁花が、頭上から降ってきました。
／6月下旬

シモツケ／(バラ科)

キシモツケ(木下野)とも呼ばれ、落葉低木の一種です。
この中川緑道の植込みで、今年、こんもりと沢山の花がつけました。
一方「シモツケソウ」というのは、色も似ていますが、草です。
／7月上旬



氏名	散歩の花子	町名	西新小岩	調査区	1-4
----	-------	----	------	-----	-----



コノテガシワ(児の手柏)
／(ヒノキ科)

雌花は、3月頃に花が咲き、
6月頃に角のある、うす青色の
球果になります。
夜道の街灯にブルーの実が
浮かび上がっていました。
／7月上旬

ビロードモウズイカ
／(ゴマノハクサ科)

葉をなでると、
布のビロードのような感触です。
モウ(毛)ズイ(蕊=しん)カ(花)
という意味ですが、変な名前で、
海のイカかと思いましたが、
植物でした。
／7月上旬



● 葛飾区自然環境レポーター 自由レポート ●	調査月	2023.06~2023.08月	名前	むしあお
-------------------------	-----	------------------	----	------

- 観察日：6/6～約1週間
- 調査区：5-28（南水元）

空き地にコチドリが頻繁に来る。2020年頃～徐々にこの地区への飛来数が増えている印象。



- 観察日：6/18
- 調査区：4-22（新宿）

チョウゲンボウ。工場跡地の原っぱでよく見かける。見通しが良いので餌を探しやすいのだと思う。この日は、ホバリング→急降下して、カエルらしきものを捕え、食べる場所を観察できた。



- 観察日：6/22～約2週間
- 調査区：5-28（南水元）

ワカケホンセイインコを、この調査区では自身初確認。6羽くらいの群れで鳴きながら飛んでいた。2週間ほど、ほぼ連日来ていたので定着するのかもしれない、その後見なくなった。もともと近隣にはオナガが多いたが、この時期はカラスや猫に対して頻繁にモビングしているので、ワカケもオナガによるモビングで追い出されたのかもしれない。

- 観察日：6/22
- 調査区：4-22（新宿）

にいじゅくみらい公園で、ツバメの巣立ちビナが飛ぶ練習をしていた。

- 観察日：7/15
- 調査区：1-4（西新小岩）

【自然環境レポーター研修会@あらかわ水辺公園】参加

あらかわ水辺公園の再整備にあたり、「今後どのような環境を残すべきか検討する」という課題で、水辺ゾーンを歩きながら生き物観察や、残すべき環境について意見を出し合った。

植物は野放図に繁っている印象（ママ科が多い）。ある程度の野生味を残しつつも整備する余地は大いにあると思った。



コフキソウムシ



コガネグモ



ナガコガネグモ

- 観察日：7/2
- 調査区：5-26（水元公園）

【昆虫】

ウチワヤンマ、コシアキトンボ、シオカラトンボ、チョウトンボ、クロイトトンボ、オオシオカラトンボ、シオヤアブ、キマダラカメムシ
 ナガゴマフカミキリ、タケノホソクロバ幼虫、セグロアシナガバチ、アブラゼミ（今年初）、ニイニイゼミ、ハムシの仲間
 ウグイス（まだ囀っていた）、アオスジアゲハ、クロアゲハ、ショウリョウバッタ幼虫、オオヒラタシデムシ、ナナフシモドキ

【鳥類】

ハクセキレイ、ムクドリ、ドバト、ツバメ、カワウ、カルガモ、オオヨシキリ声、ハシブトガラス、シジュウカラ、コゲラ声、ヒヨドリ、
 コアジサシ、エナガ、アオサギ

【他】

アカミミガメ（魚の死骸？に群がっていた）

シオヤアブがキマダラカメムシをがっちりホールド。



ナナフシモドキ。体長10cm位？のなかなか立派なサイズ。



ナガゴマフカミキリ。見事に木肌にカムフラージュ。



- 観察日：7/29
- 調査区：4-22（新宿）
 にいじゅくみらい公園。ハクセキレイ、若鳥を含む20羽くらいの群れ。

- 観察日：8/15
- 調査区：5-28（南水元）
 団地の外廊下手摺りで、ヒヨドリの巣立ちピナが飛ぶ練習中。
 親鳥は飛んで付いてくるよう促しているが、勇気が出ないのか、いっこうに飛ばない。

- 観察日：8/29
- 調査区：4-22（新宿）
 18:30頃、もう暗くなりかけているのにイソヒヨドリがタワマン周辺で元気に囀っていた。

「葛飾あらかわ水辺公園」再整備に向け、みんなで知恵を絞る

広瀬 温 (調査区2)



7月15日、自然環境レポーターの研修会が「葛飾あらかわ水辺公園」で開かれた。かつしかハープ橋南の首都高の下、中川との間のコンクリート堤防にパイプ椅子を並べ、葛飾を高潮から護る「上平井水門」を正面に眺めながらの「青空教室」、防災と自然保護を考えるには絶好のロケーションだ。天気は薄曇りで最高気温33℃、高架下なので暑くはないが、南寄りの強風で資料が飛ばされそうになる。公園課の中島さんに再整備計画の概要をうかがい、水元ネイチャープロジェクトの齊藤悠さんの案内で

「水辺ゾーンの現状を把握し、今後どのような環境を残すべきか検討」していく。

首都を水害から守るための人工河川・荒川放水路は1911年着工、2024年に通水100年を迎える。「葛飾あらかわ水辺公園」は荒川の自然環境と河川景観を活用し、「生きものとのふれあえる公園づくり」をテーマに2000年に開園した。当初は「水辺ゾーン/生物ゾーン/広場ゾーン/湿地ゾーン」に細かくゾーニングされていたが、20年を経て施設の老朽化、利用状況の変化により、新小岩公園の嵩上げに合わせて再整備が計画されている。



河川敷に降りて水辺公園を歩く。いつもはひとりで自転車で回っているが、インストラクターと一緒にだと見えなかったものが見えてくる。とはいえ、水辺ゾーンのワンドは草が伸び放題で水辺に近づけない。2019年10月の台風19号のような増水が繰り返され、「幕の内弁当」的なゾーニングは自然に翻弄されて「チャンプル」化。外来種に覆われた草叢は「生きものとのふれあえる公園」から程遠いのが現状だ。

9月上旬、自転車で河川敷を回ると、区境を越えた江戸川区で高水敷の掘削工事が始まっていた。洪水対策だろうが、隣接する水辺公園との連続性はない。さらに新小岩公園の嵩上げが白紙に戻り、災害時に避難できる防災ビル建設に留まるという話を耳にした。

水辺公園のプランも知恵を絞る必要がありそうだ。「チャンプル」では水辺の魅力は伝わらない。荒川の水辺を味わい尽くすために「ビュッフェ」化したらどうだろうか。

- 水辺公園だけでなく、木根川橋《干潟》、堀切水辺公園《ハナショウブ》などの周遊ポイントを設け「水辺の自然解説版」を設置。QRコードでHPから最新情報を伝える。
- 総武線、京成押上線、京成本線の鉄橋周辺に芝生スペースを設け、キッチンワゴンを誘致。荒川を横断する乗客に「空の広い荒川の空間、滔々と流れる時間」の魅力をPR。
- 自転車で河川敷を回れるように、新小岩公園・四ツ木駅・堀切駅近辺にサイクルステーションを設ける。JR、京成と連携、将来的には東武、東京メトロも視野に入れる。

なぜ、水元公園には人が集まるのに、あらかわ水辺公園には集まらないのだろうか。1998年に江戸川河川敷に開削された松戸市の「ふれあい松戸川」、2016年に整備された市川市の「フジバカマの里」や、江東区小名木川沿いの「生物多様性に配慮した在来種による緑化」など、近隣の水辺整備の成功事例を参考にし、できるところから始めたい。



セミの親子観察会。子どもと一緒に青戸の自然を肌で感じる

広瀬 温 (調査区2)



7月26日、青戸平和記念公園で親子自然観察会「セミの羽化を見てみよう」が開催され、区内各所から10組23名の小学生と保護者が集まった。まずは青戸地区センターで水元ネイチャープロジェクトの中島幸一さんから、葛飾のセミの最新事情についてレクチャーを受ける。

セミの仲間は世界に約3000種、日本には35種生息し、うち葛飾区では、ニイニゼミ、アブラゼミ、ミンミンゼミ、ツクツクボウシ、クマゼミ、ヒグラシの6種が確認されている。松・杉林の減少に伴い、2000年以降ヒグラシが観察されていない半面、温暖化や木の移植により南方系のクマゼミが増加し、福島県まで北上しているという。

セミは腹部の共鳴室で音を拡大させ、にぎやかな声を出す。鳴くのはオスだけで同じ種のメス呼び寄せ。種によって周波数が異なり、他の種の鳴き声は聞こえないらしい。日本の夏を代表する風物詩だが、セミの声を楽しむのは鳴き声を左脳で処理する日本人特有で、右脳で処理する欧米人は雑音に感じ、ファールもセミを苦手としていたようだ。

日が暮れ、外が暗くなった頃、青戸平和記念公園に移動する。

子どもたちが懐中電灯を手手に駆け出し、樹々に残る抜け殻をあちこちで見つける。セミは音には鈍感だが光には敏感なので、強い光で照らさないよう、中島さんから観察の注意を受ける。

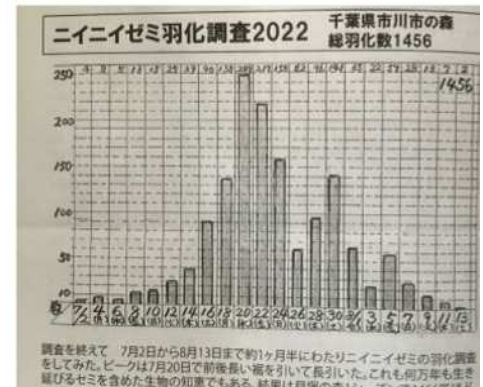
「セミが羽化してるよ！」男の子が叫ぶ。駆け寄ると、アブラゼミの幼虫が木に登り、羽化を始めている。ずいぶん低い位置だ。子どもたちはもちろん、お母さんたちも駆けつけ、遠巻きに見守る。地中から這い出て、根元をよじ登る幼虫もいる。

階段の土留めでニイニゼミが羽化を始めている。そこはいくら何でも低過ぎる……。スマホのカメラが一斉に取り囲み、子どもも大人もセミの羽化を熱心に見守る。子どもと一緒に行動すると、大人も昔は持っていた「子どもの眼」を取り戻せる。自然に寄り添うと、観察している親子の気持ちも寄り添える。

「江戸川の自然環境を考える会」代表の田中利勝さんは、市川市北国分でセミの観察を続けている。今年は6/30～8/11に1756匹のニイニゼミが羽化したという。2022年はグラフの通り7/2～8/13に1456匹が羽化し、7/19～20の249匹をピークに正規分布に近い曲線を描いている。急な環境変化に影響されずに種をつなぐ、生きものの知恵だろう。数字が落ち込んでいる7/26は東京で45mmの降雨が観測されている。田中さんは、観察・調査を楽しみながら続け、記録する習慣の重要性を説き、ご自身も実践されている。

「セミは地中で7年間過ごし、地上に出てからは1週間しか生きられない」と教えられたが、羽化してからの寿命が実は3週間～1カ月ほどあると高校生が研究発表したのは記憶に新しい。

中島さんによると、ニイニゼミの幼虫は土に湿り気がないと育たない。都市の乾燥化が進む中、青戸公園の土壌には水分が保たれている証だ。どこにでもある街中の公園・青戸公園の生きものに親しんで生態を知り、環境を守って次世代に伝えていきたい。



2023猛暑の夏。令和の小学生、米どころ葛飾の田んぼづくりに挑戦。

広瀬 温 (調査区2)

郷土と天文の博物館の「米づくり体験教室」では、幼稚園年長組～小学6年生の30数名と保護者が、曳舟川親水公園の田んぼで米づくりに取り組んでいる。この夏、4年ぶりに「田んぼサポーター」の方々も参加し、5月28日に田植えが行われた。博物館の小峰園子学芸員の説明は子どもにもわかりやすいだけでなく、大人でも初めて知ることが多く、田んぼを通じて、水辺を取り巻く自然環境・葛飾の暮らしについて理解が深まる。



6月17日 草取り、大豆の種まき

晴、最高気温30.9℃/田植えから3週間、イネの背丈は伸びているが、根付きがいまひとつのようで、田んぼに入っただけの草取りは見送られ、畔からの観察となる。畔に植える大豆の種まきが行われ、子どもたちの多くが家で育てるために持ち帰る。



7月1日 草取り、大豆植えかえ、ザリガニ釣り



雨時々曇、最高気温27.8℃/田んぼに入って草取りを行い、イネの生育を妨げる雑草を取り除く。今年はアオミドロが多い。昨年はウキクサが多かったという。イネはもちろん葉で光合成を行うが、水・栄養を取り込む根の張りがこの時期には重要となる。田んぼの土を踏むことで土壌に酸素が送られ、好気性の有機物が増える。除草剤を使っていないので、ザリガニ、スジエビ、ミナミヌマエビなど、生きものが顔を出す。発芽した大豆を畔に植え替えていると、雨が降り出し、ザリガニ取りは中止となった。



7月23日 竹細工教室

晴、最高気温33.4℃/竹は水はけのよい土壌を好み、昭和30年代まで葛飾区内各所に群生し、農閑期には副業として竹製品が製作されていた。今も伝統工芸品「飾り熊手」が作られている。夏休みに入ったこの時期、宿題の提出物にもなる「箸・皿・コップ・ペン立て・でんでん太鼓・行燈」など、好きなものを製作する。博物館のホールで、田んぼサポーターに教わりながら、鋸や木槌、電動ドリルを使って、親子で力を合わせて竹細工に取り組む。現在はつくばみらい市産の竹を使用。柔らかく加工しやすいモウソウチクが主に用いられるが、水分が多くカビが生えやすいので、行燈にはマダケを用いる。



親子で力を合わせて竹細工に取り組む。現在はつくばみらい市産の竹を使用。柔らかく加工しやすいモウソウチクが主に用いられるが、水分が多くカビが生えやすいので、行燈にはマダケを用いる。





8月13日 かかしづくり、お米の花見

大雨時々曇、最高気温32.9℃/人間にとって美味しい米は、自然界の生きものにとってもごちそう。田んぼの害虫としてはイナゴやウンカがいるが、博物館田んぼの最大の敵はスズメ。スズメ対策に古着を利用して思い思いのかかしを作る。



イネは真ん中の太い部分から穂が出(出穂)、穂の先のほうから花が咲き出す。イネが開花するのは午前中の2時間ほど、気温30℃を超えて乾燥してきた頃、雄しべが伸び、花粉が風に乗って他の株の雌しべに受粉する。受粉すると直ちに花を閉じ、1カ月ほどで米が実る。今年は酷暑でイネの開花が遅い。

8月下旬、米をスズメから守るため、ネットが張られる。小峰さんによると、農村のスズメは網を怖がり、網に触れるのを嫌って近づこうとしないが、葛飾のスズメは網の小さな隙間から中に入り、中を飛び交っている。できたての米が時間無制限・食べ放題だ。



9月17日 稲刈り

曇後晴、最高気温32.9℃/待ちに待った稲刈りだが、猛暑が続く、実入りが悪いようだ。焼きものができるくらいの粘土質の田んぼに足を取られないようにしっかり開き、4株まとめてつかんで、根元からこぶし1つ分のところを鎌を引いてざっくり刈る。鎌を使うのが初めての子も多いが、2~3回繰り返すうちにコツをつかんでいく。稲刈りが進むと、隠れていたザリガニが出現。稲刈りそっちのけになる男の子たちに「ザリガニは稲刈りが終わってから!」とお母さんさんたちから声が飛ぶ。昭和も平成も、令和になっても子どもの本質は変わらない。4株ごとにまとめたイネ2束を交差させ、紐で結んでハサかけにする。これから2~3週間、天日干しで乾燥させる。郊外で目にする光景だが、昭和30年代まで葛飾でも至るところで見られたという。



今はなき田んぼは「水辺のふるさと」のシンボル

イネの成長を見守り、田んぼを観察していると、そこで暮らす生きものに目が向く。葛飾の自然環境は、山や海など大自然に囲まれた環境ではない。ときとして洪水をもたらす川を利用し、水田のために水路を張り巡らせた、人がつくり出した「自然環境」だ。

首都を支える米どころだった葛飾。田んぼはイネだけでなく、多くの生きものを育む「水辺のふるさと」の原風景だ。猛暑の夏、田んぼに取り組む親子から「水辺のふるさと」の未来が見えた気がする。



眼に訴えるセミ達の言葉

私は6年以上、亀有香取神社に毎朝、参拝して一日を迎えています。

今年において、7月20日にニイニイゼミが参道の真ん中にジッと止まっていました。写真ではわからないかも知れないが、羽が逆に曲がっていて「正中」にいた。

「正中」は神様の通る場所なので、つい、そこに入ってしまったので罰として、羽を曲げられたのか？逆に、人間で言えば障害者なのに『神』としての力を持っているので「正中」にいたのかは不明だが、私としては後ろの障害者方面の方に心が行く方で、例えを変えれば、現在、朝ドラ『らんまん』の主人公の万太郎も人間社会の上では一人の障害者でも感じます。それでも、植物に対する好奇心は誰にも負けない人だから・・・!!

その2日後に、ミンミンゼミが香取神社の参拝する上の所に鳴いていましたが、スマートフォンを充電中で家に置いて来たので写真には出来なかったのが残念でしたが、8月8日に亀有香取神社の道祖神の参道の道の上にアブラゼミがジッと止まっていました。

セミと言うと、鳴き声で耳に訴える昆虫と言うのが、常識だが神様の参道の上で私に眼で訴えるなんて、神様が何かを私にセミ達を使って語りかけているのだと感じる夏を過ごす今日この頃であり、きっと自分の人生に大きな解脱をする時だとも感じています。

慶蔵



▲「正中にいたニイニイゼミ」 7/20撮影



▲「道祖神にいたアブラゼミ」 8/8撮影

氏名：となり 調査区 4 2023年6月～8月

《《 鎌倉町の自宅の庭 》》 基本的に自宅の庭だけを観察対象としています。



2023年6月14日

キスジコガネ? マメコガネ? ハギの葉の上



P7084834 2023年7月8日

カナブン 網戸についていた



P6034626 2023年6月3日

カナヘビ 尾の先が黒い個体



P6244780 2023年6月24日 尾の先が黒い個体



P7224898 2023年7月22日 カナヘビ

干からびかけたミミズを食べる



P8064976 2023年8月6日 カナヘビ



P6204770 2023年6月20日 14:40

ハムシとなにか

私の修行不足によりカナヘビの個体識別
ができないので、同時にできてくれない
と、何匹いるかわからない。



P6104700 2023年6月10日14:00
カマキリ



P7084829 2023年7月8日14:14
カマキリ



P7094842 2023年7月9日14:45 カマキリ
梅の木を登って行った



P7224913 2023年7月22日14:21
カマキリ



P7224914 2023年7月22日14:24
前肢に黄色の突起が3つあるので
ハラビロカマキリ?



P6164759 2023年6月16日17:59
ヘリグロテントウノミハムシ



P6164764 2023年6月16日18:00
チビアメバチの仲間？



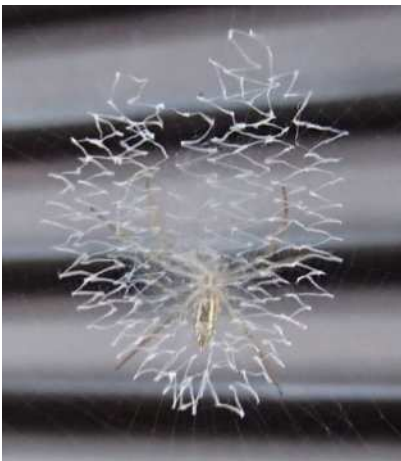
P7224892 2023年7月22日12:22
キオビツヤハナバチ？ クリスマスローズの葉の上



P7234923 2023年7月23日13:51
オオフタオビドロバチ？ 花が終わったベルガモット
で何をしているのでしょうか。



P6164756 2023年6月16日17:54
ジョロウグモの幼体？



P7174870 2023年7月17日18:06
クモなみなみの巣 特徴的な網の張り方
ナガコガネグモの幼体？



P7224921 2023年7月22日
18:08 徘徊性のクモ？



P8275001 2023年8月27日
カナヘビの子どもが生まれました。

葛飾区自然環境レポーター 自由レポート (2023年6~8月)

氏名：江戸川の小鮒	調査区：主に 5-24、5-26、4-23	町名：東金町
-----------	-----------------------	--------

6月4日(日) 東金町1丁目 駐輪施設1階屋内 → 金町6丁目マンション1階

毎年ツバメが繁殖している駐輪場に今年もツバメがやってきて、子育てをしていた。オーナーの許可を得て写真を撮らせてもらった(写真①)が、すでに巣立ったヒナもいるとのこと。親鳥が代わる代わる餌をヒナに与えていた。オーナーは毎年ヒナの巣立ちに向けてしっかり見守ってくれている。この駐輪施設は、夜は23時までには入口のシャッターを閉め、朝は6時頃シャッターを開けている。常時オーナーご夫妻が交代で店番をしているので、天敵のカラス等に襲われる恐れも殆んどなく、金町駅周辺ではツバメが子育てをする上で最も安全な場所と思われる。



写真① ツバメの巣 ヒナ4羽を確認

オーナーに、近隣に他にもツバメの巣がないか伺うと、「常磐線の反対側のマンションの1階にも巣がある。ただ、最近カラスに襲われたようだ」と情報提供をしてくださった。早速教えてもらったマンションに行き、管理人さんに話を伺った。マンション1階の内側に3つの巣があるものの、うち2つは巣が一部崩落しており、3つの巣はすべて子育てをしていなかった(写真②)。



写真② 3つの巣のうち左右の巣は一部崩落

マンションの管理人さんの話では、巣作りを始めたが、軒下に管理人室のゴミ袋を置いたところそのゴミ袋にカラスがやってきて、その際にツバメの巣に気付き襲ったようだとのこと。なお、ヒナが生まれていたかどうかは不明とのこと。ゴミの置き場所などちょっとした工夫で、もしかしたらカラスに襲われずに済んだかもしれないだけに、残念な結果となった。

【参考】

日本野鳥の会が行った『ツバメの子育て状況調査』によると、「都市部では多くのヒナを育てられない」、「ツバメの子育て失敗要因のうち人間による巣の撤去が1割を超える」ことが判明。

市街地と都市郊外の巣立ちヒナ数のそれぞれの平均は、市街地は3.86羽、都市郊外は4.27で、市街地は4羽を下回っている。巣立ちヒナ数が4割を下回ると、将来的にツバメの生息数が減少していくという試算があり、10年間の調査結果では少子化傾向に変化がないとのこと。また、天敵を避けるために人の暮らしの中で命をつないできたツバメだが、人そのものが脅威となりつつある。また別の調査では、スズメやコサギなど他の身近な野鳥の減少も報告されているようで、生物多様性が失われつつある様子。私たち自然環境レポーターの役割も大きくなっているようです。（出典：日本野鳥の会「ご支援のお願い ツバメと生きものたちのにぎわいを、未来に伝えるために」）

6月24日（土） 東金町6丁目 江戸川堤防

3月以降、毎日この地域の江戸川堤防上からヒバリの元気な囀りが聞こえていたが、この日が今シーズン最後の確認となった。そろそろ今シーズンも終わりを迎える覚悟はしていたが、いざ囀りが聞こえなくなると何とも寂しいものだ。ヒバリの囀りは時に風に乗って400m離れた場所まで聞こえてくる。それはヒバリが空に高く舞い上がりながら囀ることが影響しているのではないかと思う。通勤・帰宅途中に「えっ!?こんな離れたところまで聞こえてくるの?」と思ったことが何度もあった。また来春まで聞けなくなるが、その時はどんな春を迎えているだろうか。

6月27日（火）・28日（水） 東金町6丁目 江戸川堤防・河川敷

朝、自宅出勤の準備をしていると、江戸川方面からキジ（オス）の鳴き声が二日間続けて同じ時間帯に聞こえた。自然環境レポーターになって20年ほど経過しているが、6月末に聞こえたのは初めてと思われる。ネットで調べると7月くらいまでは鳴くともあるので、決して珍しいことではないのかもしれませんが。

6月28日（水） 東金町3丁目 金蓮院

13時15分頃、金町駅から自宅に向かっている際に、金蓮院からニイニイゼミの鳴き声が聞こえてきた。今シーズン初認である。この日の最高気温は31度で真夏日となり、夏到来を実感した。

7月3日（月） 東金町6丁目 葛西神社

葛西神社の樹々からもニイニイゼミの鳴き声が聞こえるようになった。

7月14日（金） 東金町6丁目 葛西神社

ニイニイゼミから遅れること11日。この日からアブラゼミそしてミンミンゼミの鳴き声が聞こえるようになった。連日の高い気温が続いたことも影響したか。

7月16日（日） 東金町6丁目 葛西神社

葛西神社北側の樹々の間をアカボシゴマダラが2頭飛翔。しばらくするともう1頭飛んできたかと思うやいなや、3頭でくんずほぐれつの状態で竜巻のごとく渦を巻くようにらせん状に上空へと舞い上がっていった。それにしてもチョウは周りが実によく見えている様子。瞬時に別のチョウに近寄るスピードと飛翔の速さには本当に驚かされる。

8月26日（土） 水元公園小合溜



写真③ カルガモ

水元公園を散策していると、小合溜脇の草原でカルガモが植物（オヒシバ？）の穂先を食している場面に出会った。

これまで冬鳥のヒドリガモなどが小合溜脇の地面に生えている植物を食べている場面を見かけることはあったが、カルガモが陸上の植物を食べている場面を見るのは初めてだったので、とても新鮮に思えた。しばらく近くで見えていたが、一心不乱に植物を食べていた。

8月29日（火） 水元公園小合溜

夕方、小合溜横のベンチで夕涼みをしていると、目の前の杭に大きなトンボがとまっている。よく見たらウチワヤンマだった。かなり近くに寄ってスマホで写真を撮っても、全く逃げる素振りも見せず。やや風が強かったが、トンボは動じることもなくとまっていた。



写真④ ウチワヤンマ

8月29日（火） 自宅

自宅のベランダに出ると、エアコンの室外機の上にハチの巣が落ちていた。確かにそれまで洗濯物や布団を干す際に、外壁に取り付けられている給湯器の中からハチが出入りしていることがあった。ハチを刺激しないよう対応したため特にハチから攻撃されることもなかったが、幼虫は無事に巣立ったのであろう。あらためて室内にて上面および下面からの写真を撮った。ネットで調べたがハチの種類は同定できないが、アシナガバチだろうか。



写真⑤ エアコン室外機の上に落ちていたハチの巣

しかしこんな自宅の給湯器などを利用して生き物が一生懸命いのちを繋いでいたかと思うと、何とも愛おしく思えた。



写真⑥ 上面から見た巣



写真⑦ 下面から見た巣

自然観察レポート 調査区5

R5/6~8月の巻 佐々木 定治

これが日本の夏ですか？



6/14 ハンゲショウ ←水元3丁目→



6/15 ムラサキツユクサ(インクバナ)



7/13 セミ 水元3丁目



7/26 ツバメ 水元2丁目

我が家にツバメが営巣して、かれこれ30年近くなります。この間、見守り役のジョニー（柴犬）が巣を守る大役を担っていましたが、召されてからは、カラスや猫の攻撃に度々悩まされてきました。それにも凜として戦いを挑み、命をつないできました。「五月の中頃を迎えると 南の国からつがいで 礼をつくすかのように 正装した燕尾姿で訪れ 飛び方はいたって 複雑極まりなくうまく 到底まねなどできない 今日も難なくこなし 軽々と飛んでいる 滞在中家の近くで 子育てに取り組み 帰る際にどの子にも 必要な礼服を 身に備えさせていた 〈産経新聞8月5日付け 朝の詩 ツバメたち 引用〉

この季節には、我が家の家族であるツバメ達が毎年帰って来る、賑やかさを待ち望む季節でもあります。梅雨明け宣言は言葉ばかりの飾り季節用語と化し、気候変動を如実に見せつけられている中でも、生きものたちの生命力には迫力があります。それにしてもこの灼熱は、日本の夏だったのかとしきりに考えた夏でした。

灼熱の暑さの中でも逞しく



7/28 カマキリ 水元3丁目↑

8/13 ツユクサ↓



7/14 セシジスズメガの幼虫 水元3丁目



8/18 カマキリ 水元3丁目

地球温暖化ではなく「地球灼熱化」とか「地球沸騰化」というような言葉が適合する程の暑い夏でした。そして、かつての日本の気候では、考えられないようなメリハリのない季節になってしまうのではないかとというような、現象が増大しているように感じます。大気不安定後のスコールのような雨の後でも、気温は下がらず蒸し暑さが不快指数をさらに上げてもいるのです。

この夏の植物には「葉焼け」が随所に発見できました。毎日の水遣りによってかろうじて「生き物」の命をつないでいる人に見守られている庭の「生き物」は、そこで耐えて黙って暮らしをたてているような「健気」で「過酷」な命の力を見せつけられました。水を求めて動き回る「カマキリ」「セシジスズメガの幼虫」は、丹精込めて愛情を注いだ庭水に、その姿を見せてくれました。生き物の命をつなぐのにこれでいいのかと、自問自答しながら「共生」のために、地球のために自分ができることは何なのかを、考えさせられた今夏でした。

氏名 K・N		町名 東金町			調査区 5		
(水元公園正面入口～養魚場入口間の指定種の植物と昆虫)鳥類は大橋周囲～小合溜 (種類・植物・蝶々・野鳥(令和5年6月・7月・8月))							
種類	6月	7月	8月	種類	6月	7月	8月
セイヨウタンポポ	2	0	0	アゲハチョウ	2	3	2
ツユクサ	0	0	10	モンシロチョウ	3	2	2
シロツメクサ	0	多数	0	アオサギ	1	1	0
シジミチョウ	5	5	4	コサギ	1	1	1
クロアゲハチョウ	0	3	1				

野鳥情報 今年をつばめは巣立ちが早く6月～7月だ

駐車場 雛 3羽 6月中旬	2箇所目雛 3羽 7月初旬	3箇所目 3羽 7月初旬	ひなの合計 9羽、 過去2年とも16羽
------------------	------------------	-----------------	------------------------

東金町4丁目の空家戸袋にも巣はあったが、雛数は未確認

昆虫情報

① 水元公園の桜土手の歩道脇で撮影した。高温と雨なしで6月の草刈後雑草のびず、昆虫をみかけないが、コガネムシ?にであう。



② 昨年の夏もセミが路地の道端にひっくり返っていたが、今年は2ヶ月で40匹以上拾い草むらに置いた。近所の公園は土があり、「穴やぬけがら」などを見つけた。セミの生態に興味が強まり図書館で調べる。『セミと仲間の図鑑』に『アブラゼミの雌は枯れ枝などに数個ずつ産卵。卵は翌年の6～7月に孵化。幼虫は地中にもぐり、各種樹木の根から養分を摂取し6年目の夏、羽化する』とあった。成虫のセミは、6日から10日生存。卵や土にもぐる前の幼虫を写真で見たいので5冊ほど調べたが、情報は同じ内容で新たなものはなかった。

木の根もとの穴

羽化の脱け殻

成虫のセミ



季節の写真集 (6~8月)



幻想的な花菖蒲 Ryu 6/9 堀切菖蒲園



ツマグロ
ヒョウモン
Ryu 7/18
お花茶屋



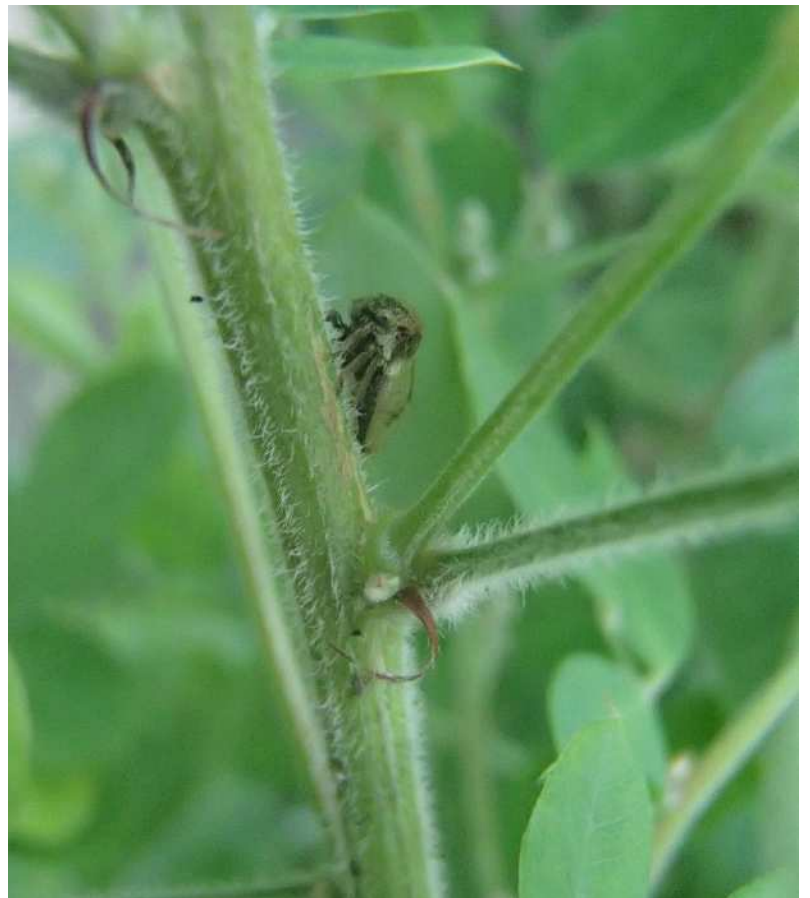
カマキリ
佐々木定治
7/28
水元3丁目

季節の写真集 (6~8月)



キイロスズメ
となり 6/1
鎌倉町自宅庭

ツノゼミの仲間
となり 6/14
鎌倉町自宅庭



「ゴーヤゼミ」 アブラゼミ
となり 7/17 鎌倉町自宅庭

季節の写真集 (6~8月)



オオシロカラ
カサタケ
瑛ちゃん
6/17 柴又



エビガラ
スズメ?
瑛ちゃん
7/14 柴又

ツバキの種 R 7/31 お花茶屋公園

ツバメ 瑛ちゃん 8/4 柴又



季節の写真集 (6~8月)



「西亀有小学校の
プールの壁で
羽化したトンボと
その脱け殻」
有泉桂子 6/28
西亀有小学校

「堀切7丁目のサトイモの
家庭菜園で育った
セスジスズメ」
セスジスズメ
有泉桂子 8/29
堀切7丁目



チョウトンボ
むしあお 7/2
水元公園



季節の写真集 (6~8月)

ニホンカナヘビ
下山田隆 6/18
水産試験場



ウチワヤンマ♂
下山田隆 7/2
水元公園



ウチワヤンマの羽化殻
むしあお 7/2
水元公園



フクズミコスカシバ
下山田隆 8/12
江戸川



葛飾柴又新八水路 魚からの便り-311

調査回数 調査日 地点	313			備 考	
	2023/6/4 (豪雨後)				
	本流	新八水路	新八ワンド		
1	ア シ シ ロ ハ ゼ	8 45-64			
2	ウ ナ ギ	2 107-116			
3	オ イ カ ワ	20 66-138			
4	カ ダ ヤ シ		4 24-38	2 30-32	特定外来生物
5	ギ ン ブ ナ	2 139-193		1 54	
6	コ イ	1 40	7 17-24	2 29-42	
7	コ ク チ バ ス	3 27-35	2 11-30		特定外来生物
8	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	6 31-72			
9	ス ズ キ	7 55-91			
10	ス ミ ウ キ ゴ リ	2 28-28	6 33-46	2 40-44	
11	ド ジ ヨ ウ		31 20-44	10 31-34	
12	ニ ゴ イ	3 35-140			
13	ヌ マ チ チ ブ	107 34-81	1 42		
14	ブ ル ー ギ ル	1 100			特定外来生物
15	ポ ラ	4 63-75			
16	マ ハ ゼ	38 32-72	1 39		
17	マ ル タ		3 26-32		
18	メ ダ カ		2 30-34	1 33	
19	モ ツ ゴ	2 58-58	4 17-30	1 28	
計		15種類206個体	10種類61個体	7種類19個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲 (単位: mm)
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて19種類286個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温26.0℃、水温 本流20.4℃、新八水路20.3℃、新八ワンド20.0℃ (14:30頃測定)
- 「参考」江戸川の水位 (観測所: 千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側)
(10:00)1.88m (12:00)1.56m (14:00)1.31m

【参加者コメント】

- ・ 水路で、バス仔が採れました。増水で入り込んだと思われます。魚にとって災難ではあるのですが、分布を拡大するチャンスでもあるのだなと思いました。
ワンドで、オオヨシキリが鳴いていました。ここ数年、来ていなかったのに、と思ったら、ワンドの中にだいぶヨシが侵入していました。どうしたものか、悩ましい所です。
午後、水がひいた新八水路に入ったら、どん詰まりの地中から水が湧き出して、小さな流れになっていました。古いみず道が残っているのでしょうか。(KI)
- ・ 前日までの豪雨の影響で当日朝まで水位が高く、調査実施が危ぶまれたが、一気に水位が下がりがり問題なく実施できた。水路、ワンドの種類が多かったのは間違いなく増水の影響だ。(SI)

【今後の調査日】

7月15日(土) 8月12日(土) 9月10日(日)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集: 一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-312

調査回数 調査日 地点	314			備 考
	2023/7/15			
	本流	新八水路	新八ワンド	
1 ア シ シ ロ ハ ゼ	1 54			
2 オ イ カ ワ	32 62-119			
3 カ ダ ヤ シ		9 20-32	86 12-52	特定外来生物
4 ギ ン ブ ナ	1 85			
5 ゲ ン ゴ ロ ウ ブ ナ	1 355			
6 コ イ	1 71			
7 コ ク チ バ ス	4 65-320			特定外来生物
8 ス ゴ モ ロ コ	1 64			
9 ス ミ ウ キ ゴ リ		9 39-56		
10 ツ チ フ キ	5 62-70			
11 ド ジ ヨ ウ		12 45-138		
12 ニ ゴ イ	33 67-177			
13 ヌ マ チ チ ブ	5 42-60			
14 ボ ラ	17 61-103			
15 マ ハ ゼ	7 64-94		1 71	
計	12種類108個体	3種類30個体	2種類87個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて15種類225個体の魚類が採集されました。
- ・ 曇り、気温32.6℃、水温 本流28.1℃、新八水路26.7℃、新八ワンド28.6℃（15:00頃測定）

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉縣市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
（10:00）1.81m（12:00）1.87m（14:00）1.87m

【参加者コメント】

- ・ 新八周辺はニイニイゼミ（？）が多いと毎年思いますが、羽化したてのアブラゼミをもらいました。マハゼも投網にかかり、本格的な夏も近いようです。水路のどんづまりのクルミの木が、今年は豊作のせいか、枝がしだれてきて、手で取れそうで、楽しいけれど事故などが起きないように祈ります。（KI）
- ・ 水位が高く投網を打つのに苦戦しました。これだけのニゴイが採集できたのは記憶にありません。自然はおもしろいですね。（MT）
- ・ 水深が深くなかなか大変でしたが、参加できてとても良かったです。（MT）
- ・ 胴長着用しない投網師の頑張りに脱帽、夏でよかった。親子連れの参加者、見学者、合計なんと15名。（SI）

※昨年9月に初採取された「ドンコ」は、その後「カラドンコ」であったことが確認されたため裏面の名前も「カラドンコ」に変更しました。（裏面参照）

【今後の調査日】

8月12日（土） 9月10日（日）

HP（<http://shigenori1.jimdo.com/>）新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚からの便り-313

調査回数 調査日 地点		315			備 考
		2023/8/12			
		本流	新八水路	新八ワンド	
1	オ イ カ ワ	9 15-104			
2	オ オ ク チ バ ス	3 126-314			特定外来生物
3	カ ダ ヤ シ		29 11-33	3 13-15	特定外来生物
4	ク ロ ダ ハ ゼ	2 14-22			
5	コ ク チ バ ス	11 100-283			特定外来生物
6	ゴ ク ラ ク ハ ゼ	3 55-75			
7	ス ミ ウ キ ゴ リ		1 44		
8	ド ジ ヨ ウ		3 70-82		
9	ニ ゴ イ	15 100-126			
10	ヌ マ チ チ ブ	4 44-68			
11	ブ ル ー ギ ル	2 22-139		1 21	特定外来生物
12	ボ ラ	7 104-311			
13	マ ハ ゼ	22 82-110			
14	マ ル タ	6 18-82			
15	メ ダ カ	3 22-24	1 24		
16	ヨ シ ノ ボ リ 属 sp	8 15-22			クロダハゼと 思われる
計		13種類95個体	4種類34個体	2種類4個体	

- ・ 上段の数字は個体数、下段の数字は全長の最小-最大範囲（単位：mm）
- ・ 江戸川本流、新八水路、あわせて15種類133個体の魚類が採集されました。
- ・ 晴れ、気温34.2℃、水温 本流31.8℃、新八水路28.1℃、新八ワンド30.1℃（14:00頃測定）

「参考」江戸川の水位（観測所：千葉県市川市市川 市川根本排水機場江戸川側）
 (10:00)1.86m (12:00)1.86m (14:00)1.87m

【参加者コメント】

- ・ バケツに入れたコクチバスに、コムラサキ（蝶）が来ていました。オスにそういう習性があるようです。新八では初めて見ました。（KI）
- ・ 30度を超える猛暑に加え、本流の水位が終日高くて魚が採りにくかった。ニゴイの個体数が多く、ヌマチチブが少なかった。これ以上出水がなくて底質に沈澱物が多くなると、ニゴイさえ減るかもしれない。本流とワンドでブルーギルの未成魚が採れた。今後とも注意が必要だ。（YK）
- ・ 船着場で500mmくらいのアメリカナマズ数ひき発見 なんとかしたいものです。（MT）
- ・ 本流の水温が31.8℃ととても高く、川の中にもとても暑かったです。でも台風が当たらなくて良かったです。（MN）
- ・ ワンドの中はアシだらけで足の踏み場がなかった。なんとかしたい。（SI）

【今後の調査日】 9月10日(日)

HP (<http://shigenori1.jimdo.com/>) 新八水路「自主生物調査団」【編集：一澤成典】

葛飾柴又新八水路 魚類出現状況

No.	標準名と地点	調査回数		2016		2017		2018		2019		2020		2021		2022		2023		314	315
		1-48	49-106	107-163	164-223	224-235	236-247	248-259	260-271	272-283	284-295	296-307	308	309	310	311	312	313			
1	イセゴイ																				
2	ウナギ																				
3	ワカサギ																				
4	アユ																				
5	サケ																				
6	タモロコ																				
7	スモロコ																				
8	デメモロコ																				
9	ヒガイ																				
10	ニギイ																				
11	カマツキ																				
12	ツツキ																				
13	モツ																				
14	マルダ																				
15	ウグイ																				
16	カワムツ																				
17	オイカワ																				
18	ハス																				
19	ワタカ																				
20	ハクレン																				
21	キンナ																				
22	ギンナ																				
23	ゲンゴウ																				
24	キン																				
25	コイ																				
26	コイトフナの雑種																				
27	ヤリダナ																				
28	イサモシ																				
29	アヒレ																				
30	タイクハ																				
31	ドジョウ																				
32	カラダ																				
33	アマリ																				
34	ナマ																				
35	カサヨリ																				
36	メダカ																				
37	カダヤシ																				
38	ホウ																				
39	メナダ																				
40	カムル																				
41	クロダ																				
42	スズキ																				
43	オオクチ																				
44	コクチ																				
45	ワケギ																				
46	シマイ																				
47	ヒイラ																				
48	ヌチ																				
49	チ																				
50	シマハ																				
51	クワ																				
52	クロハ																				
53	シノ																				
54	ビリン																				
55	スミ																				
56	マハ																				
57	アハ																				
58	ヒナ																				
59	チ																				
60	ド																				
61	ン																				
62	コ																				
63	計																				

※:和名がヨシノボリ(鱈色型)からクロダハゼに変わりました。

●:初採取

環境課からのお知らせ

★自然環境レポーター研修会を開催しました！★

令和5年7月15日(土)、「葛飾あらかわ水辺公園を学ぶ」をテーマに、葛飾あらかわ水辺公園にて自然観察会を開催しました。

マメ科の植物やコガネグモといった生きものを観察しながら講師の解説を聞き、公園課から葛飾あらかわ水辺公園の再整備に向けた話を聞くなど、改めて自然環境について考える研修会となりました。

風の強い日でしたが、ご参加いただいた皆さまありがとうございました。

今後も研修会を開催していく予定ですので、レポーター同士の交流やレベルアップのためにも、皆さまのご参加をお待ちしております。

グッドかわせみ賞受賞者 20名をご紹介します！

グッドかわせみ賞は、年に7回以上レポーター活動に励んだ方に授与されます。受賞された皆さまには、委嘱式時に賞状と記念品をお渡しました。なお、委嘱式を欠席された方には郵送しております。

Rさん、有泉桂子さん、石鍋壽一さん、瑛ちゃんさん、
江戸川の小鮒さん、K・Tさん、K・Nさん、佐々木定治さん、
散歩の花子さん、下山田隆さん、高橋雅子さん、田村ひろ子さん、
千葉美文さん、となりさん、トム姉さん、広瀬温さん、
むしあおさん、Ryuさん、ゆきひめさん、藤並剛さん

今年度もグッドかわせみ賞を目指しましょう！



★新ハ水路で魚類調査を行います★

日 時 10月29日(日) 11月12日(日) 12月10日(日)
午前10時～午後4時ごろ
場 所 江戸川河川敷 ※事前連絡をお願いします。
持ち物 着替え、昼食、飲み物、首に巻くタオル、短くないソックス
詳しくは、HP (<http://shigenoril.jimdo.com/>) をご覧ください。

★綾瀬川や曳舟川親水公園等で行う魚類などの 調査を見学しませんか★

採取した生物を展示して、調査結果の概要を説明します。
直接会場へお越しください。

日 時 10月16日(月) 9時00分～ ※雨天時は10月17日(火)
調査結果の説明 11時30分～(30分程度)
場 所 綾瀬川(東四つ木避難橋付近)

日 時 11月8日(水) 13時00分～ ※雨天時は11月14日(火)
調査結果の説明 15時30分～(30分程度)
場 所 曳舟川親水公園(四つ木5丁目先)

《お詫びと訂正》

「水辺のふるさとかつしか」夏号(第325号)のP.18に誤りがありました。

2段落目の2行目

誤:「明治の初期はカントウタンポポが」

正:「明治の初期はセイヨウタンポポが」

ここに深くお詫びし、訂正させていただきます。

※ホームページは差し替え済みです。

秋号にご協力いただいたみなさま

Rさん、有泉桂子さん、石鍋壽一さん、瑛ちゃんさん、
江戸川の小鮒さん、K・Nさん、慶蔵さん、K・Tさん、
佐々木定治さん、散歩の花子さん、下山田隆さん、
田村ひろ子さん、となりさん、トム姉さん、広瀬温さん、
藤並剛さん、むしあおさん、弥生さくら草さん、
ゆきひめさん、Ryuさん
自主生物調査団(編集:一澤成典さん)

ご協力ありがとうございました!

「水辺のふるさとかつしか」第326号

(葛飾区 自然環境レポーター通信第278号)

令和5年9月末日 発行

葛飾区環境部環境課自然環境係

〒124-8555 葛飾区立石5-13-1

代表電話 (3695)1111

内線 3522~3

直通電話 (5654)8237

FAX (5698)1538



「水辺のふるさとかつしか」の内容について、
お間違い等お気づきの点がありましたらお知らせください。